

農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

 (5) 新入職員農業法人現地研修
農林中央金庫 福島支店 (福島県)

新規	継続
○	(平成 年 月)

1 動機(経緯)	農林中央金庫は、農業法人の取組みや課題に直に触れることで現場感を養い、その体験を通して当金庫の役割等について考えることにより、将来的に農林水産業の継続的な成長に貢献できるようになることを目的に、平成 29 年度より新入職員の農業法人現地研修を実施しました。
2 概要	<p>当研修は、平成 29 年度が初開催となり、平成 29 年 4 月採用職員 110 名(全国)のうち、福島支店では新入職員 12 名が参加しました。</p> <p>当研修は「うつくしまふくしま農業法人協会」の全面的な協力のもと実現したもので、県内の水稲、露地野菜、施設野菜、キノコ、果樹、畜産と多岐に亘る農業法人 13 法人を訪問し、各法人の事業内容について学びました。</p> <p>養鶏を営む法人では、早朝に行われる鶏の出荷作業や加工場での鶏肉の解体作業、店舗での惣菜品販売などの一連の流れを実際に体験しました。</p> <p>その他、果樹を経営する法人では畑の除草作業、葉物野菜の生産に取り組む法人ではサンチュの定植作業などの農作業も経験し、自然や生き物を相手にした農業ならではの仕事の大変さや悩みを体感しました。</p> <p>また、各法人では、震災当時の話や未だに残る風評被害の話や直接お聞きすることにより、東日本大震災・原発事故が福島県の農業に与えた被害の大きさについても学習しました。</p>
3 成果(効果)	研修に参加した新入職員は、「震災から約 6 年半が経過した今でも、福島県の生産者の方々が風評被害に苦しんでいること知りました。風評被害の払拭に向けて、自分も県産品の美味しさや安全性を周囲の人に伝えていきます」と話し、農業法人の取組みや悩みについての理解を深めました。
4 今後の予定	今後も、当金庫は、同協会の協力のもと本研修を継続し、将来的に農林水産業の継続的な成長に貢献できるような人材を育成して参ります。

【研修の様子】

